

■源頼信 武将。源満仲の三男で、平忠常の乱鎮圧で武勇を挙げ、河内国石川郡壺井を本拠地とする河内源氏の祖になった。

みなもとのよりのぶ
・ ・ ・ ・ ・ 968＝ 源満仲の三男に生まれる。
安和の変・ ・ 969＝ 1歳：

・ ・ ・ ・ ・ 977＝ 9歳：

花山天皇出家 986＝18歳：20も年上の兄頼光は、この年、天皇一行を護衛して、東宮権大進となると、摂関家に取り入り始め、
・ ・ ・ ・ ・ 987＝19歳：左兵衛少尉。
尾張百姓訴え 988＝20歳：子頼義が誕生。藤原兼家の二条京極邸新築に際し馬30頭を献上してその富裕ぶりが話題となったように、
兄頼光と同じく関白の藤原道兼に仕え、

・ ・ ・ ・ ・ 994＝26歳：盗人捜査に当たるべく、源満政らとともに召集されているように、
疫病大流行・ 995＝27歳：*道兼死後は道長に仕えて、平維衡・平致頼・藤原保昌らと“道長四天王”と称されるとともに、諸国の受領を歴任して行く。

花山法皇事件 996＝28歳：兄頼光は、花山法皇を射た罪で左遷された藤原伊周・隆家の警備を務め、以後、藤原道長の忠実な侍。
河内に土着して石川郡に壺井荘を拓き、香炉峰の館を建て一方、
藤原彰子入内 999＝31歳：上野介在任を契機として、上野国を皮切りに、関東・東国へ河内源氏は地歩を築き始め、

和泉式部日記1004＝36歳：

源氏物語始・ 1008＝40歳：常陸介在任時、坂東で抗争する平忠常を、内海の浅瀬を選んで突切り居宅へ急迫して鎮圧、降伏した忠常は心服し家来となることを誓約した。

・ ・ ・ ・ ・ 1013＝45歳：

三后鼎立・ ・ 1018＝50歳：兄頼光が、道長が新築し土御門邸の家具調度類すべてを献上、耳目を驚かしている。
刀伊来寇・ ・ 1019＝51歳：石見守になり、現地赴任。

・ ・ ・ ・ ・ 1021＝53歳：兄頼光が死去。
・ ・ ・ ・ ・ 1022＝54歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1023＝55歳：鎮守府將軍。

藤原道長没・ 1027＝59歳：
平忠常の乱始1028＝60歳：時に前伊勢守。坂東で、平忠常が、安房国の国府を襲い、国守平維忠を焼き殺す事件を引き、追討使平直方が派遣されるも、討伐に失敗、
・ ・ ・ ・ ・ 1029＝61歳：甲斐守。
平忠常追討・ 1030＝62歳：替わって、追討使に任じられるが、家人であった平忠常は、
平忠常の乱終1031＝63歳：従四位下に昇叙し、甲斐守如元。*一戦も交えずに降伏・出頭、京連行される途上、病没。その首もって入京、武人としての名声を高める一方、忠常の残された一族を守ることに尽力、後に、頼朝挙兵の際に、主力部隊となり、鎌倉幕府の御家人となる上総氏、千葉氏が出、嫡男源頼義は平直方の娘を娶り、坂東平氏嫡流勢力を受け継ぐことになるなど、坂東の武士(平氏、秀郷流藤原氏など)が河内源氏と主従関係を結ぶことが始まり、後の東国支配と武家源氏の主流となる礎を築くのである。石清水八幡宮への告文では、乱を見事に平定できたのは、八幡大菩薩および応神天皇の血を受け継ぐ恩恵とある。
・ ・ ・ ・ ・ 1032＝64歳：美濃守に遷任。
・ ・ ・ ・ ・ 1036＝68歳：相模守に遷任。
長久莊園整理1040＝72歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1046＝76歳：菅田八幡への告文では、自らの祖源経基を陽成天皇の王子元平親王の子であると述べ。一般に言われるような清和源氏でなく陽成源氏であるとも述べている。
・ ・ ・ ・ ・ 1047＝77歳：従四位上に昇叙し、河内守。
・ ・ ・ ・ ・ 1048＝80歳：没した。墓は、河内源氏の菩提寺の通法寺近くの大阪府南河内郡太子町に、義家と共にある。